

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：幼児教育学科

資格：准教授

氏名：崎山 ゆかり

研究分野	研究内容のキーワード
健康・スポーツ科学 身体発達発育学 子ども学	発達・子育て、ダンス・ムーブメントセラピー、身体的共感、ケステンバーク・ムーブメント・プロフィール
学位	最終学歴
博士（学術）、文学修士	奈良女子大学大学院 人間文化研究科 社会生活環境学専攻 後期博士課程 早期修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. オンライン実技授業における双方向のアプローチの工夫	2020年5月8日2020年7月30日	対面によるグループでの身体表現、運動遊びの作品の制作を、オンラインで可能となるよう、授業前半は教員と学生との双方向の授業（ライブとクラスルーム利用によるフィードバック）を踏まえ、後半のグループ活動への発展させ、クラス全体で作品の共有ができるように工夫した。
2. 学部・学科・学年を超えた身体表現遊びの指導	2016年04月2016年07月	共通教育科目の「共感を育むダンス・ムーブメント」の授業において、シンプルでリズムカルな動きの提示から、学部・学科・学年を問わず、相互交流が図れる身体表現の要素を入れた遊びを提示し、学生間の交流を促進した。
3. コミュニケーションを意識した身体表現活動の指導	2009年04月2015年02月	保育内容表現Ⅰの授業の中で提示する既存の歌遊び、手遊び等を指導した上で、そこからペアやグループでの活動に応用する遊びへの発展例を紹介し、身体表現遊びの活動の幅やレパートリーの広げ方を指導した。
4. 授業毎学生へのフィードバック	2007年04月2016年02月	教科体育の授業において実践した様々な運動遊びや身体表現を含む動きの遊びについて、授業の終わりに「授業記録」の提出を毎回義務付けた。翌週の授業で、クラスで共有すべき意見やアイデアについて、出席確認後時間を設けてフィードバックを実施し、授業理解を深める実践を行った。提出された授業記録は、最終授業時に個別に綴じて返却し、授業全体のフィードバックの資料とした。

2 作成した教科書、教材		
1. オンライン実技授業での実技指導のための動画	2020年5月	ライブ授業では十分に伝わりにくい動きやそのポイントを、コンパクトに動画にまとめ授業資料として提示した。また一人で作成できない場合は、共担の教員同士で協力し、三密を防ぐ形での相互交流の在り方を示した。
2. 教科体育 子どもを育む幼児体育・運動遊びワークブック（改定版）	2017年3月	昨年度の使用状況を参考に、授業前後の予習復習のための自主課題ページを増補し、さらに学生自身に記録の重要性の自覚を促すために、提出日などを明確化した改訂版を作成した。
3. 教科体育 子どもを育む幼児体育・運動遊びワークブック	2016年3月	10年間の教科体育での指導でまとめた配布資料を踏まえ、授業の進行に合わせて学生が行う授業記録などの記載ページも加えたワークブックを作成。

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 幼児及び児童への運動指導	1991年4月1日2007年3月31日	奈良県健康づくりセンター所属の運動指導員として、未就園児の2歳半～のこどもとその保護者を対象にした親子体操、4歳児～小学6年生を対象にしたこども体操教室、3歳児対象の水慣れを目的とした水泳教室などを担当し、幼児及び児童への運動指導業務に従事した。

4 その他		
1. バンコク在住の子育て世代の発達相談への援助	2020年4月現在に至る	乳幼児の運動分析技法（KMP）を活用した運動分析的視点から、個別の発達相談業務を行うImage Matters Asia代表で他の運動分析技法（MPA）の専門家 Alisa Lohinavy 氏のスーパーバイザーとして、相談に応じている。
2. 発達障害などを有する子を対象とした親子で行うダンスセラピー	1999年4月2020年3月	NPO法人かしば手をつなぐ育成会（現在の名称）からの依頼を受け、長年福祉センターにおいて、毎月オープングループの親子のセッションをボランティア活動の一環として実施。希望があればダンスセラピーを学びたい学生を受け入れている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許		
1. ケステンバーク・ムーブメント・プロフィール上位分析家	2015年08月11日～現在	乳幼児の発達上のリズムを基盤とし、精神分析理論に基づく運動分析法であるケステンバーク・ムーブメント・プロフィール（KMP）の上位資格。発達支援などに活用される。理論だけでなく動きの記譜法など全ての教授が可能な資格。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2. ケステンバーク・ムーブメント・プロフィールレベル1（初級）分析家	2014年12月14日	こどもの発達段階の動きやそのリズムに着目した運動分析法の初級の課程を修了。保育者やダンスセラピスト向けの入門レベルを教授できる資格。 Borad Cerified Dance Movement Therapist ダンスセラピーの専門家として教育とスーパービジョンに携わるための協会認定資格(ADTRより資格領域の変更(RegisteredからCertifiedに伴い名称変更))
3. アメリカダンスセラピー協会認定ダンスセラピー指導者(BC-DMT)	2002年03月	
4. 中学校教諭専修免許状(保健体育)	1990年03月	
5. 高等学校教諭専修免許状(保健体育)	1990年03月	
6. 幼稚園教諭二種免許状	1988年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 附属幼稚園親子への身体表現活動指導	2011年09月	武庫川女子大学附属幼稚園の親子プログラムにおいて、同年の研究テーマである運動遊びを踏まえ、親子による身体表現を取り入れ、親子で役割分担をして、彫刻家と人間粘土に分かれ、身体表現による造形遊びを指導した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. Dance/Movement Therapy in Japan and its cultural roots	共	2020年10月	Routledge Taylor & Francis group	Dance and Creativity within Dance Movement Therapy International Perspectives, Wegrower& Chaiklin 編、Rainbow, Ho, Rona Cohen Ruth Ronenらを含む延べ19名の分担執筆者の一人として日本の状況と文化的背景を論じた。pp. 233-248.
2. ダンスコミュニケーション認知症の人とつながる力	共	2014年06月	クリエイツかもがわ	三宅眞里、吉村節子編、山口樹子訳、向出章子、貴船恵子、平山波、川岸順子、大沼幸子、崎山ゆかり、坂本千恵、町田章一他、オーストラリアの認知症のダンスセラピストヘザー・ヒル氏の著作への寄稿として、ダンスムーブメントの現場から「ストレス軽減とコミュニケーションのためのダンス・ムーブメントセラピー」pp. 88-90を執筆
3. ダンスセラピーの理論と実践 からだと心へのヒーリングアート	共	2012年04月29日発行	ジアース教育新社	平井タカネ、大沼幸子、町田章一、松原豊、尾久裕紀、葛西俊治、北島順子、八木ありさ、山中克己日本ダンス・セラピー協会制作のダンスセラピスト資格取得のための研修講座のテキストとして編著者として関わる。理論編(全10章)1章、実践編(全13章)3章分を担当。米国のダンスセラピストのバイオニアたちの理論と技法(pp. 143-154)、身体的共感(pp. 169-179)、知的障害児・者への実践法(pp. 255-265)や生涯教育(健康)領域の実践法(pp. 299-310)をまとめた。
4. 新子ども健康	共	2010年03月	三晃書房	平井タカネ、西村美佳、上野恭裕、林麗子、成瀬九美、渡部かなえ、岡澤哲子、井上摩紀、河本洋子他平井タカネ、村岡眞澄、河本洋子編著、平成8年度版の全面改訂で、「保育臨床の視点から見た子どもの動き」の箇所(pp. 35-37)を担当。保育現場で気になる子どもの動きの分析指標などを紹介した。
5. タッチングと心理療法ーダンスセラピーの可能性ー	単	2007年09月	創元社	長年のダンスセラピーの実践から、心理療法においてタッチングが有効であることを示した。安全な枠組を設定することで、タッチングが多様な人々の心身の活性化や他者とのコミュニケーションの促進に寄与することを、理論と実践の両面から検討した。
6. ダンスセラピー入門ーリズム・ふれあい・イメージの療法的機能ー	共	2006年06月	岩崎学術出版社	平井ダンスの持つセラピューティックな機能に着目し、リズム・ふれあい(タッチ)・イメージの療法的機能について実験データを示すと共に、具体的な技法を紹介。精神障害、知的障害などさまざまな立場の人への実践報告も掲載している。
2 学位論文				
1. 心理療法的機能を活かした身体にふれる技法の創案と展開ーダンス・ムーブメントセラピーにおける実践的研究ー	単	2005年3月	奈良女子大学大学院(人間文化研究科社会生活環境学専攻)	ダンス・ムーブメントセラピーの実践から、身体にふれることを含むアプローチの心理療法的意義を明らかにし、幅広い対象者への応用可能なセッションモデルを提示。そのモデルに沿った実践(精神障害者、重複障害児、中途身体障害者、高齢者)から、他者と実際に身体がふれあうことによる効果について検証した。
3 学術論文				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1. Dance movement therapy in Asia : an overview of the profession and its practice	共	2019年8月	Creative Arts in Education and Therapy Eastern and Western Perspectives, Vol.5(1) p.40-50	Tony Yu Zhou, Nayung Kim, Shoichi Machida, Yuka Sakiyama, Pei-Shan Tsai, Tsungchin Lee, Rainbow Tin Hung Ho, Rashi Bijlani, Devika Mehta, Minh Bui, p.46、アジアで活動するダンスセラピストとの共著として、日本におけるダンスセラピーの発展について教育と臨床の両面から概要を簡潔にまとめた。
2. ケステンバーグムーブメントプロフィールにおけるエフォートとシェイプの表現性に関する研究－親子の観察指標開発のための基礎資料として－（査読付）	単	2018年3月	日本芸術療法学会誌 Vol.49, No.1, 76-84	欧米などで乳幼児の向けの運動分析法であるKMPの分析項目の中で、異なる2つのシステムの表現性の相違に着目し、まずその違いについて文献から考察した。続いて、具体的な女児Aの分析事例のデータより、具体的に2つの異なるシステムごとのデータを比較し、その関連と解釈について論じた。
3. ケステンバーグムーブメントプロフィールにおけるテンションフロー特性とその応用に関する一考察（査読付）	単	2017年3月31日	ダンスセラピー研究 Vol.10 No.1 pp.37-45	他者に共感し、関係性を築くためには、他者の共に動くときのかかわり方の運動の質の理解が不可欠である。乳幼児の運動発達への支援につながる運動分析法であるケステンバーグムーブメントプロフィールの分析カテゴリーであるテンションフロー特性の分析方法の独自性を取り上げ、汎用化に焦点を当て具体的な活用法について、アメリカの幼稚園での保育者と運動分析家の協働による保育現場で表現される身体の在り様とその動きの特性を例示しながら、その可能性について論考した。
4. テンションフローリズムにおけるミックスリズムに関する一考察－身体的共感につながる動きのリズム体験を通して－（査読付）	単	2017年3月31日	ダンスセラピー研究 Vol.10No.1 pp.27-36	他者と共に動き、関係性を育むためには、その基本となる動きから生まれるリズムに着目する必要がある。特に乳幼児の運動発達を理解し、その動きのリズムを掘り下げるのが重要である。そこで、乳幼児の運動発達を踏まえたケステンバーグムーブメントプロフィールの分析カテゴリーのテンションフローリズムを取り上げ、記譜の技法を習得する際に必要な他者への身体的共感に基づくリズムの調律の実践について論じた。
5. A Brief History and Current Status of Dance/Movement Therapy	共	2017年1月6日	Creative Arts in Education and Therapy-Eastern and Western Perspectives, vol.3(1) 64-68	アートによる教育とセラピーの専門雑誌にColloquium: Creative and Expressive Arts in Education, Research and Therapy-Focus on Japanに位置づけられた中で、表現療法と音楽療法と共に、日本のダンスセラピーの歴史と特性や現況について報告した。町田章一との共著で主に歴史を町田(64-66)、特性と現況を崎山(66-68)が担当した。
6. ケステンバーグムーブメントプロフィール(KMP)における前駆エフォートとエフォートの表現性に関する研究(査読付)	単	2017年1月31日	日本芸術療法学会誌 Vol.47, No.2, 125-132.	こどもの運動発達と精神発達段階を基盤とした運動分析法(KMP)の2つの分析カテゴリーに着目し、13か月の女児の動きの分析結果のデータを元に、カテゴリーによる動きの違いや表現される内容の相違について検討した。具体的には各カテゴリーの分析結果から得られた数値を比較して、その意味付けを行った。
7. Kestenber Movement Profile理解のための動きの実体験に基づく教材研究	単	2016年03月31日	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) Vol.63 21-29	乳幼児の発達に基づく運動分析法であるKestenber Movement Profile(KMP)の理解には、理論だけではなく動きの実体験が不可欠である。実際の資格取得のための専門コースの受講体験を踏まえ、日本でKMPを学び理解するために必要な体験を促すための教材作成を試み、指導者が活き活きと運動指導を行う基盤となる動きの体験を引き出すための教材について検討した。
8. ダンスセラピストの立場から見たタッチングと心理療法	単	2013年05月	The Journal of Aromatherapy & Natural Medicine Vol.22 No.3 17-21	「タッチング(ふれあい)のメカニズムと有用性」という特集号の中で、心理療法におけるタッチングの禁忌の理論的背景を論じた。さらに、ダンスセラピーにおけるタッチングのとらえ方と、タッチングが奏功した事例、マイナスに働いた事例などを紹介し、セッションで活用できるタッチングを含む具体的なアプローチについて述べた。
9. Kestenber Movement Profileの記譜における学びの過程と分析対象者への調律に関する検討	共	2012年03月	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) Vol.60 63-70	中めぐみ これまでの筆者らのKMPへの取り組みを概観し、動きの分析のための具体的な技法となる動きのリズムの記譜の実態について、2歳女児の日常動作や保護者とのリズムカルな動きの遊びなどの映像からの事例を元にまとめた。専門家による分析結果を踏まえ、記譜者が分析対象者に調律するための課題について論じた。
10. Kestenber Movement Profileにおける運動分析用語の解釈に関する検討	共	2010年03月	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) Vol.58 13-21	中めぐみ 子どもの動きの分析法であるKMPのテンションフローリズムにおける動きの特性やそのイメージを日本語でわかりやすく表現するため、動きの映像からイメージされる言葉のアンケート調査を実施した。保育者を目指す学生を対象に、異なる運動の質を指導者として引き出すためにイメージするオノマトペについて尋ねた。その結果オノマトペによる叙述が全体の33%を占め、リズム特性を表す用語を規定す

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11. A Study of Ethical Issues of Touching in Dance Therapy	単	2009年04月	Moving On Dance -Movement therapy Association of Australia, 7, No. 3&4 21-26.	る際の、一助になることが示唆された。 オーストラリアのダンスセラピー協会より依頼を受け、過去の論文（ダンスセラピーにおけるふれることについての倫理問題の検討）を再掲することとなり、過去の論文を一部改訂した。第三者が英訳した原稿を校正した。
12. 子どもの動きの評価法に関する基礎的研究—ダンスセラピーにおけるKestenberg Movement Profileを手がかりにして—	単	2009年03月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学, Vol.5 7 19-26.	ダンスセラピーにおける子どもの動きの評価法のKMPに焦点を当て、その理論的基盤の整理を行い、保育現場で指導者が乳幼児と運藤やリズムなどの動きでかかわる際の応用の可能性について論じた。
13. 子どものためのダンスセラピーに関する世界の現状と課題	単	2009年03月	武庫川女子大学 人文・社会科学, 56 : 9-17	アメリカダンスセラピー協会第13回インターナショナルパネリストにパネリストとして参加した経験をふまえ、世界14カ国の子どものダンスセラピーの状況をまとめた。さらに筆者自身の保育現場における運動遊び領域の研究から、集団でかかわりあう子どもの遊びとの関連を述べながら、日本の現状と課題について総括した。
14. 非言語的コミュニケーションを支えるダンスセラピー技法の検討	単	2008年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学, 55 : 1-8	共通教育科目で実施した「ボディワーク入門」の授業をふまえ、参加学生がコミュニケーションを促進させた要因となるダンスセラピー技法との関連を考察し、実際の体験が学生の自覚できる心身の変化にどのように寄与したかを記録から検討した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. Korean Society for Dance/Movement psychotherapy		2011年03月		Future of Dance/Movement Therapy
2. 学会発表				
1. 保育現場での身体表現指導に活かす乳幼児の運動分析	単	2020年5月16日	第73回日本保育学会ポスター発表	乳幼児の運動分析技法であるケステンバークムーブメントプロフィールの分析カテゴリーにおける感情の核を示すテンションフロー特性に焦点を当て、保育現場での多様な身体表現を引き出すための応用可能性について検討した。なお、本学会は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となったため、抄録原稿提出による誌上発表の位置づけとなった。
2. 幼稚園児の運動能力と保護者の食育への意識との関係（2）	共	2020年5月16日	第73回日本保育学会ポスター発表	科研分担研究の中間発表として、分担発表者の立場で昨年に引き続き、幼児の運動能力測定結果と保護者の食育への意識との関連性を検討した。崎山は幼稚園での運動能力測定を担当した。なお、本学会は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となったため、抄録原稿提出による誌上発表の位置づけとなった。
3. 幼稚園児の運動能力と保護者の食育への意識との関係	共	2019年5月4日	日本保育学会第72回大会	科研の分担研究で行っている幼児の食育の評価研究の一部の成果発表として、運動能力測定結果と食育アンケート調査結果の関係性について、分担発表者として発表を行った。
4. Workshop on Information Technologies for Kestenberg Movement Profile Analysis: An Early Stage Developmental Disorder Detection Case	共	2019年5月30日	Joint 8th International Conference on Imaging, Informatics, Electronics & Vision (ICEV) 3rd International Conference on Imaging, Vision & Pattern Recognition (IVPR)	科研の代表研究者として実施している乳幼児の運動分析技法の自動化に関する研究の中間発表として、現行のアナログの技法を紹介した上で、共同研究者が制作中の入力装置のデモンストレーションを実施し、工学的な観点からの意見交換を行った。
5. Kestenberg Movement Profile and IT Support - Focusing on Input Device for Tension Flow Rhythms and Kinesthetic Empathy	共	2019年10月18日	the 54th annual conference of American Dance Therapy Association Research and Poster presentation	科研費の研究課題の中間発表として、分担研究者との共同発表で開発中の入力装置の製作の過程とその問題点および今後の開発に向けたの方途について論じた。
6. ケステンバークムーブメントプロフィールにおけるシェイプ系動作の発展性に関する研究	単	2018年9月1日	日本ダンス・セラピー協会 第27回学術研究大会	ケステンバークムーブメントプロフィール (KMP) における2つのシステムの中のシェイプ系カテゴリーに焦点を当て、その中の2つの分析カテゴリーである方向性シェイプと面性シェイプの動作の発展性に着目した。最新のKMP文献で取り上げられた3歳男児の分析事例を元に、データを比較し、同系列のシステムの中で、動作が発展して出現することを具体的に言及した。
7. ケステンバークムーブメントプロフィール (KMP) における異なる分析カテゴリーの関連	単	2017年9月2日	第26回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会 実技発表	乳幼児の発達に基づく運動分析法の異なるカテゴリーの比較を行い、運動の性質が具体的な身体表現となって見いだされる関連カテゴリーの説明と実技を実施した。
8. Japanese New Popular Bon Dance	共	2017年11月16日	10th Annual International Education and Diversity Forum	Whitworth University で開催された教育フォーラムのワークショップにおいて、伝統的な盆踊りの文化的背景と現在保育領域で活用されるアニメの人気キャラクターの盆踊りを紹介し、MFWI留学中の教育学科の学生たちに動きのデモンストレーションと参

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
9. Body Communication through Japanese Perspectives	共	2016年11月17日	9th Annual International Education and Diversity Forum	加者とのワークをリードした。 Whitworth University で開催された教育フォーラムのワークショップにおいて、日本人の身体文化に基づくコミュニケーションの在り様について、保育現場で実践されている伝承遊びの動きや子ども向けのエアロビクスの身体表現を取り上げ、MFWI留学中の教育学科の学生たちに動きのデモンストレーションと参加者とのワークをリードした。
10. ケステンバーグムーブメントプロフィールにおける前駆エフォートとエフォートの表現性に関する研究	単	2015年11月29日	第47回日本芸術療法学会	乳幼児の運動発達を観察から成り立つKMPの分析カテゴリーの中から、KMP独自の項目である前駆エフォートとラバンの運動分析項目と等しいエフォートに着目し、これらのカテゴリーごとに相対する要素の表現性の違いについて論じ、これらの理解が動きから他者を理解することにつながる重要な観点であることを指摘した。
11. ダンスセラピーのいままでとこれから	共	2015年11月01日	第24回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会 大会特別企画シンポジウム	町田章一 日本におけるダンスセラピーの歩みと今後を議論するシンポジウムで、「これから」を考えるための話題提供のシンポジストとして、設立50周年を迎えたアメリカのダンスセラピーの現状と課題について述べた。
12. ケステンバーグムーブメントプロフィール (KMP) を活用した身体的共感をもたらすリズム調律	単	2015年11月01日	第24回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会 実技発表	KMPのピュアリズムの特性の理解を踏まえ、2種類または3種類のピュアリズムの融合を実体験しながら、他者とリズムを通して共感する具体的なアプローチ方法について論じた。
13. A Study on Japanese Onomatopoeias Based on Effort Elements for Classification of Simple and Expressive Movements	単	2015年10月23日	the 50th annual conference of American Dance Therapy Association Research and Poster presentation	先行研究を踏まえ、エフォートを表すオノマトペの分類を試み、エフォート要素を具体的に示すオノマトペの抽出と、その提示方法について検討した。
14. Kestenberg Movement Profileにおける動きのリズムに関する検討ーリズムからの非言語コミュニケーションによる子育て支援を目指してー	共	2015年09月20日	日本心理臨床学会第34回秋季大会	Kestenberg Movement Profileの中のリズム性に着目したテンションフローリズム (TFR) に着目し、発達段階ごとのピュアリズムとピュアリズムが組み合わされたミックスリズムをを理解し、これらのリズムを通じた相互交流の在り方について、分析事例を踏まえてその意義をまとめた。
15. A Study on Recurrence of Movement Quality with Japanese Onomatopoeias Based on Effort Elements	単	2014年11月7日	the 49th annual conference of American Dance Therapy Association Research and Poster presentation	先行研究で抽出されたエフォート要素を表すオノマトペによる動きの再現性について調査した結果、そのままエフォートの要素を含む動作のみで再現されるものと事物などを操作する新たな意味づけをもった動きに分類されることが明らかとなった。
16. Why I Became A Dance/Movement Therapist?	単	2013年10月26日	the 48 annual conference of American Dance Therapy Association, the 19th International Panel	14か国からの代表者のパネルにおいて、日本のパネリストとしてセラピストになったきっかけとその経緯について語り、鼓童の音楽を用いたダンスを行った後ドイツのセラピストとの即興を行った。全パネリストの口頭発表後はフロアの参加者と共に踊るという発表形式で、プレゼンテーションを実施した。
17. 身体的共感におけるリズム性と空間性に関する一考察	単	2013年08月30日	第22回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会	ダンスセラピーにおける不可欠な要素である身体的共感の捉え方の多様性を踏まえ、筋運動感覚レベルでの感情移入 (Kinesthetic Empathy) として位置づけて、リズム性については調律から空間性についてはタッチングから検討し、身体的共感の成立条件を論じた。
18. Communication through Movement with and without Touch	単	2013年06月29日	2013 Korean Dance Movement Association International Conference	韓国ダンスセラピー協会設立20周年記念の国際大会において、他者交流を促進するダンスセラピーの技法であるタッチングに着目し、タッチがある場合とない場合のアプローチの方法を、ワークショップ形式で発表した。
19. 人間粘土遊びを通じた親子の身体表現の在り方	共	2012年5月4日	第65回日本保育学会	崎山ゆかり、水谷孝子 附属幼稚園における親子活動の一環として、親子で粘土と彫刻家になるからだを使った造形遊びを実施した。形を作る遊びを通して、自然発生的に親子のふれあいや対話、時には笑いも生まれ、身体表現を通じた親子のコミュニケーション促進の場となった。また3, 4, 5歳児毎に同様のプログラムを行ったことから、発達段階ごとの検討が今度の課題となった。
20. エフォートに基づくオノマトペのイメージ特性についての検討	単	2012年11月25日	第21回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会	エフォート要素(時間、空間、流れ)に基づくオノマトペをアンケート調査で抽出し、上位2位までのオノマトペを用いた自由歩行を実施した。歩行後、どのようなイメージ歩いたかを調査したところ、もともとのエフォート要素と全て一致するもの、全く一致しないもの、エフォート要素と異なる身体表現のイメージとが混ざるものに分類された。
21. Applying Dance/Movement Therapy in Early Childhood Education	単	2012年10月13日	the 47 annual conference of American Dance	アメリカダンスセラピー学会の国際委員会による国際パネルに登壇。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
in Japan			Therapy Association, the 18th Internation al Panel	ダンス・ムーブメントセラピーの新たな方向性をテーマに、インド、オーストラリア、エストニア、オランダ、ドイツ、チェコの代表者と共に自国での活動を発表し、議論した。
22. A Pilot Study on Movement Quality of the Japanese Onomatopoeias Based on Effort Elements	単	2012年10月12日	the 47 annual conference of American Dance Therapy Association, Research and Thesis Poster Session	ラバンの運動分析のエフォート要素に基づく日本語のオノマトペについてアンケート調査をした結果を報告し、抽出されたオノマトペの中から、最も標本数の多かった時間の要素のオノマトペに着目し、そのオノマトペのイメージで行った自由歩行の時間と歩幅の実験より、有意に速度に差が見られる一方、歩幅には違いはなかった。
23. Cultural Identity and Collaboration in Dance Therapy	単	2011年10月	the 46 annual conference of American Dance Therapy Association, the 17th International Panel	国際委員会主催のパネルにおいて、アメリカ、韓国、ドイツ、オランダ、ベルギーなど各国のダンスセラピストと共に、自国のダンスセラピーに用いられるダンスの文化的背景とその影響について概説し、ビデオを用いて舞踏の基礎的な動きを紹介した。
24. ダンスセラピストは何をする人か？	共	2011年09月	第20回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会シンポジウム	大沼幸子、荒川香代子、神宮京子 記念学術大会の特別企画のシンポジウムにおけるスピーカーとして、前段の「私の中の痛みに向き合う」というテーマでおこなったワークショップを振り返りながら、ダンスセラピストとしてクライアントと向き合う基本姿勢と心構えについて論じた。
25. 動きの質を表わす歩行に関するオノマトペ表現について	単	2011年09月	第20回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会 ポスター発表	ラバンなどの動きの専門用語を用いず、日常の言葉で動きを表現する試みを報告する。歩行動作に関するオノマトペについて、アンケート調査から抽出した言葉と、実際にイメージされる歩行動作とのつながりについて考察する。
26. 保育者を対象とした豆を使った食育プログラムの試行	共	2011年05月	第64回日本保育学会 ポスター発表	北村真理 保育者を対象に豆を用いた食育研修講座を行った。豆のおやつ調理と試食、ビーンバッグの運動遊びの体験後、各保育現場で多様な実践がなされた。食育普及には保育者自身の理解や知識の深化が不可欠と思われた。
27. Ways of Seeing & Making Meaning: East & West (Part 1)	共	2010年09月	the 45 annual conference of American Dance Therapy Association,	Meg H. Chang, Rainbow T. H. Ho, Stacey Hurst, Warren Tepayayone 中国系アメリカ人、香港、台湾、韓国、日本のダンスセラピストと運動分析の専門家が集まり、人の動きの質をどのような観点から分析しているか、各国の現状を報告し、西洋の視点にとらわれない東洋的な動きの分析法の可能性を探った。
28. ダンスセラピーと男性	共	2010年09月	the 45 annual conference of American Dance Therapy Association, the 16th International Panel	町田章一 大会企画のシンポジウムにおいて、日本ダンスセラピー協会における男性会員の比率や、協会運営にかかわる理事らの現状を報告し、会員における男性比率の現状をアメリカなど海外の現状との比較などをおこなった。
29. ビーンバッグを活用した運動遊びの創案と展開ー保育を学ぶ学生の教材としての意義についてー	単	2010年05月	第63回日本保育学会 ポスター発表	保育を学ぶ学生が、ビーンバッグを用いた運動遊びと新たな遊びを創案した結果、自らの卒業研究課題へとその経験を発展させていった。ビーンバッグは、学生にとって研究のための教材としても発展性があった。
30. 多様な社会におけるダンスセラピーについて	単	2008年10月	the 43rd annual conference of American Dance Therapy Association, the 14th International Panel	第14回の国際委員会のパネルディスカッションにおいて、日本のパネリストとして発表。ダンスセラピーの多様性について、日本のセラピストの活動状況を報告し、その現状と課題について述べた。また自身の実践例として、一般大学生へのダンスセラピー技法を用いたからだコミュニケーションのアプローチについて、写真を交えながら紹介し、フロア参加者との質疑応答を行った。
31. 健康増進運動とダンスセラピーのつながりについて	単	2008年09月	第17回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会	ストレッチ体操やウォーキングなどの基本的な健康増進運動が、コミュニケーションツールとして、ダンスセラピーの場で活かせることに着目し、実技を交えて報告した。
32. 幼児教育専攻学生のからだコミュニケーション	共	2008年05月	第61回日本保育学会 自主シンポジウム	平井タカネ、成瀬九美、服部明子、崎山ゆかり 自主シンポジウムにおいて、「からだコミュニケーション」をテーマに、保育者に求められる身体のあり方を複眼的視野から論じる中で、特に保育者養成課程の学生のからだの在り方を報告した。
33. Dance/Movement Therapy for Children in Japan	共	2007年10月	the 42nd annual conference of American Dance Therapy Association, the 13th International Panel	Miriam R. Bergar, Suay Tortora, 他 アメリカ・フィンランド・インド・ドイツ・フランス・エジプト・韓国・アルゼンチン、ギリシアなど世界10ヶ国のダンスセラピストが一同に介し、各国の子どもへのダンスセラピーの実践のその現状についてパネルディスカッションをおこなった。
34. Bridge between physical education for children and dance/movement	単	2007年10月	the 42nd annual conference of American Dan	日本の子どもの運動遊びの要素とダンス・ムーブメントセラピーのグループコミュニケーション促進の共

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
ement therapy			ce Therapy Associatio n	通点を実際のワークと共に体験し、参加者自身の体験を振り返りながら、実際のセラピーが必要な子どもたちへの応用のあり方を論議した。
35. 子どもの運動遊びとダンス・ムーブメントセラピー	単	2007年09月	第16回日本ダンス・セラピー協会学術研究大会	子どもの運動遊びの中にある心理療法的機能に着目し、集団での動きや楽しさの共有や表現的動作の創造を実体験し、ダンス・ムーブメントセラピーとの共有要因を探るワークショップを実施した。
36. 日々を生きるからだコミュニケーション	共	2007年05月	第60回日本保育学会 自主シンポジウム	平井タカネ、岡澤哲子、成瀬九美、服部明子、野村雅一 保育現場の大人自身のからだの在り方、また保育者を 目指す学生たちのからだの硬さなどの背景には、ど のような問題があるかについて、発表者自身の問 題意識やその解決に向けての取り組みを発表し、多 様な非言語的コミュニケーションの実際について論 議した。
3. 総説				
1. ケステンバークムーブメントプロフィール解題のための試論－調律の概念に着目して－(査読付)	単	2012年3月	ダンスセラピー研究 V ol.6 No.1 8-16	子どもの動きの分析技法であるケステンバークムーブメントプロフィール (KMP)を理解するための基礎知識をまとめたうえで、他者関係を動きの面からとらえる調律の概念に着目して、ダンスセラピストとして必要とされる動きの技術について論じた
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. Rain or Shine	共	2009年10月	the 44th American Dance Therapy Association annual Conference Opening Performance	第44回アメリカダンスセラピー学会のオープニングパフォーマンスで、開催地であるオレゴン州ポートランドの広場the Pioneer Courthouse Square で、傘を小道具とした身体表現で構成されたダンスを披露した。車いすの見学者も含め、広場で大きな円隊形を駆使した表現を参加者と共に作り上げた。
2. Movement Choir for American Dance Therapy Association	共	2008年10月	the 43rd American Dance Therapy Association annual Conference Opening Performance	第43回アメリカダンスセラピー学会のオープニングパフォーマンスで、当日集まった約20名のダンスセラピストの一人として、地元の人々を迎え入れるテーマの作品を上演した。パフォーマンスの最後には、それぞれの見学者も加わり、自由で即興的な身体表現の場を提供した。
3. Dance Ascending: The Steps of Borough Hall	共	2007年9月	the 42nd American Dance Therapy Association annual Conference Opening Performance	第42回アメリカダンスセラピー大会のプレワークショップで、地元の参加者と5名の小グループでの身体表現の作品を作り、夕方の60名に及ぶ全体のパフォーマンスでNYブルックリンの区役所の階段で披露した。さらに、フィナーレでは地元の子どもたちのダンスグループや一般の見学者と共に踊った。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. ありのままの動きを観て、理解すること－乳幼児運動分析の視点から－	単	2020年8月29日	日本ダンス・セラピー協会第29回学術研究大会(オンライン大会)における会長講演	大会主催者の立場から、「教育・保育とダンスセラピー」の大会テーマに関連付けた会長講演を行った。専門の乳幼児運動分析技法が、具体的に保育現場なのでどのように活用できるのか、前半は講義後半は実技を実施。事前に収録・編集したビデオの後、参加者とZoomで質疑応答を行った。
2. 「教育・保育とダンスセラピー居場所としての可能性－」	共	2020年8月29日	日本ダンス・セラピー協会第29回学術研究大会(オンライン大会)シンポジウム 企画・司会	関西地域で長年活躍している認定ダンスセラピストや臨床心理士3名のシンポジストに、教育・保育・療育の分野で動きでのコミュニケーションがどのように取り入れられ、セラピューティックなアプローチが、教育や保育の現場で行われているかのテーマのシンポジウムを大会会長として企画し、当日は司会進行を担当した。
3. ADTA Talks ビデオ日本語字幕校正	単	2019年12月8日	American Dance Therapy Association ADTA Talks	アメリカダンスセラピー学会のビデオ教材であるTED形式によるダンスセラピーに関する映像ADTA Talksで、視聴数上位の以下の4本のビデオの日本語字幕の校正を行った。ダンス・ムーブメントセラピーとは、ダンス・ムーブメントセラピーと自閉症、ダンス・ムーブメントセラピーと認知症、ダンス・ムーブメントセラピー：ボディランゲージの分析
4. ダンス・ムーブメントセラピーにおけるケステンバークムーブメントプロフィール (KMP)適用法入門	共	2012年03月	ダンスセラピー研究 V ol.6 No.1 37-59	中めぐみ The Art and Science of Dance/Movement Therapy Life is Dance Chaiklin&Wengrower 編の第13章の全訳。Loman&SossinによるApplying the Kestenber g Movement Profile in Dance/Movement Therapy:A n Introduction
5. 医療現場に活かすダンス・ムーブメントセラピーの実際 (An Introduction to Medical Dance/Movement Therapy) シャロン・W・グッデル (Sharon W. Goodill) 著を共訳。創元社刊。2008年1月刊行。	共	2008年1月10日	平井タカネ監修、川岸恵子、坂本麻衣子、成瀬九美、林麗子共訳 創元社 pp.1-274	アメリカの一般的な医療現場におけるダンス・ムーブメントセラピーの実態をまとめた指導者の論文集の翻訳。 2章医療的ダンス・ムーブメントセラピーのための心理学的基礎pp.26-56、6章家族や介護者のためのダンス・ムーブメントセラピーpp.159-183 担当

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 「」				
6. 研究費の取得状況				
1. 平成29年度科学研究費助成事業 基盤研究C (分担)		2017年4月から4年間		生活環境学部食物栄養学科北村真理准教授の「保育現場における食育の評価基準に関する研究」の分担研究者として、食育との関連から、幼児の体力測定と評価を担当予定
2. 平成 2 5 年度科学研究費補助金 学内奨励金 新規	単	2013年		ウェアラブルセンサを用いた二者間のリズム調律に関する基礎的研究
3. 平成 2 3 年度科学研究費補助金 学内奨励金 新規	単	2011年		Kestenber Movement Profile (KMP) の記譜法に関する基礎的研究
4. 平成30年度科学研究費助成事業 基盤研究C (代表)		2018年4月から3年間		乳幼児の運動分析の簡便化や現場での応用を目指した自動化に関する研究

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年2月2日～現在	日本発育発達学会
2. 2006年6月～現在	日本保育学会
3. 2000年 4 月1日～現在	日本心理臨床学会
4. 1992年9月～現在 副会長	日本ダンス・セラピー協会
5. 1990年5月～現在	American Dance Therapy Association
6. 1989年10月～現在 評議員	日本芸術療法学会